

# かがやき

— 希 望 —

編集：中央区教育委員会

☎3546—9598



## 子どもの詩

### 勇気

城東小学校 六年

見浪 茜

人にはいろんな勇気がある  
初めての人に話しかける勇気  
新しいことに挑戦する勇気  
怖いものに立ち向かう勇気  
自分の思っていることを語る勇気  
友達とけんかをする勇気  
大切な人に気持ちを伝える勇気

誰も気づいてはいないけれど  
毎日の生活の中で  
いろんな勇気が顔を見せている  
何気ないところで  
何気なく勇気って出してるんだ

私には

どんな勇気が必要なのだろう  
ふと まわりに目をむけると  
不安な思いにかられて  
勇気を閉じこめる人がいる  
そんな時は肩をたたいて  
大丈夫だよって言ってあげよう

それが私自身の求めている  
勇気であるから



## 平成15年度教育委員会教育目標

中央区教育委員会は、人間尊重の精神に基づき、未来を担う子どもたちが、心身ともに健康で、勤労と責任を重んじ、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる人間性豊かな人として成長するように支援するとともに、区民が主体的に学び続けることのできる生涯学習社会の実現を目指す。

そのため次の「教育目標」掲げる。

- 子どもたちが希望に満ち、自らの未来を切り拓いていけるように
  - ・ 思いやりの心、たくましい体、強い意志をもつひと
  - ・ すすんで学び、考え、行動するひと
  - ・ 人の役に立つことを積極的に行うひと
 の育成に向けた教育を推進する。
- すべての区民が、地域の歴史や文化についての理解を深め、生涯を通じて生き生きと学び、スポーツやレクリエーション活動に親しむことにより、健康で豊かに過ごすことのできる環境を整備する。

中央区教育委員会は、教育目標の実現に向け、次に示す5つの基本方針に基づき、積極的に教育行政を推進していく。

- 基本方針1 豊かな心、温かな人間関係をはぐくむ教育
- 基本方針2 一人ひとりが個性や能力を発揮する教育
- 基本方針3 健康づくり・体力づくりの支援
- 基本方針4 生涯学習・家庭教育の支援
- 基本方針5 地域文化の保存・継承

学校週五日制と新教育課程が完全実施となって、一年間が経過しようとしています。昨年度区教育委員会では、子どもたちの健やかな成長を支援するとともに、区民が主体的に学び続けることのできる生涯学習社会の実現を目指す観点から、教育目標・基本方針の大幅な見直しを行いました。

一年間、この教育目標と五つの基本方針のもとに教育を推進してきましたが、来年度も基本的には今年度の目標を継続する方向であり、実際の改定は、前文の「人間性豊かな区民」となっていた部分の「区民」を「人」に改めただけです。

ここに掲載されている部分については、これ以上改定していませんが、五つの基本方針の具体的な内容については、来年度以降の事業内容との関連を図る、現在検討中の「中央区の教育を考える懇談会」での中間報告を参考に、実態を盛り込んだ言葉にするなどの改定を行いました。詳しくは、中央区のホームページに掲載されていますので、ご覧ください。

これからの教育の在り方や子どもたちの成長過程や実態を考え、学校教育と社会教育を一体としてとらえる中で、今後も施策を進めていきます。

### 教育委員会の動き

一月の定例会では、「中央区の教育を考える懇談会」中間報告、区立学校の卒業式等の日程等について報告されました。

二月の定例会では、平成十五年中央区教育委員会の教育目標、平成十四年度中央区一般会計三月補正教育予算案、平成十五年中央区一般会計教育予算案、中央区立社会教育会館条例の一部を改正する条例等について審議・可決された他、学校における結核健診の変更、中央区成人の日記念式典「新成人のつどい」の実施結果及びアンケート調査結果等について報告されました。

また、二月二十八日に臨時会が開かれ、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第三十八条に基づく内申、中央区教育委員会教育長の給与及び勤務に関する条例の一部を改正する条例、中央区行政委員会の委員並びに監査委員の報酬及び費用弁償に関する条例の改正に対する意見の申し出、平成十五年度中央区民文化財の登録について審議・可決されました。



教育委員会では、昨年六月に、二十一世紀を展望した教育はどうあるべきかという中で、「中央区の教育を考える懇談会（会長 西村文男氏）」に

## I 中央区のこれからの教育のあり方

### II より望ましい教育環境づくり

の二点について諮問を行っていましたが、十二月に中間報告が出されました。

## I 中央区のこれからの教育

のあり方では、「多様で変化に富んだ時代を希望をもって、主体的、意欲的に生き、将来を創造することのできる子ども」を目指す子ども像としました。この子ども像の実現のためには、

- ①課題や困難にチャレンジし、自己実現する子ども
  - ②自立性や社会性を身に付け、豊かな感性をもつ子ども
  - ③地域を愛し、地域の文化や伝統を保存・継承し、地域の発展に努める子ども
  - ④広い視野に立ち、世界で活躍できる子ども
- を育成することに努めていく必要があります。

## II より望ましい教育環境づくり

では、社会の変化に対応した教育改革、物的環境、人的環境の充実等について述べており、目指すべき子ども像を実現するために、多くの具体的な提言がされています。その中の主な提言は、次のとおりです。

### ・到達度診断テストの実施

学習指導要領で身に付けることが求められている教科の目標や内容の定着度を把握すると

い、学力低下への懸念と学校生活において子どもたちや教師の

ゆとりがなくなってきた状況が生じていると言われている。そこで、夏季休業日の一部を使って授業を実施（夏季休業日の短縮）することにより、日々の授業時間を減らし、ゆとりをつくる。

### ・中学・高校との連携教育

都立晴海総合高校と隣接している晴海中学校の特性を踏まえ、

## 「中央区の教育を考える懇談会」から 中間報告が出されました

教育委員会事務局学務課

もに、教師の指導力向上のために到達度診断テストを実施する。対象は、小・中学校全学年。

科目は、小学校は国語、社会、算数、理科。中学校は、国語、社会、数学、理科、英語です。

・少人数指導のための講師派遣 子どもたち一人ひとりに確かな学力を身に付けさせるため、各小・中学校に少人数指導を行うための講師を派遣する。

### ・夏季休業日短縮の実施

完全学校週五日制の実施に伴

くりを行う。

・スクールカウンセラーの導入 小学校全校にスクールカウンセラーを配置し、児童、保護者、教師等の多様な相談に対応できるようにする。

### ・中学校の自由選択制の実施

生徒や保護者の主体性を尊重し、さらには特色ある学校づくりを推進することなどから、いずれの学校でも選択できる完全自由選択制を実施する。

### ・小学校通学区域の見直しと自由選択制の実施

地域とともに歩む小学校という伝統や、保護者・児童の主体性の確保等を踏まえ、通学区域の見直しと、隣接学校、隣接する通学区域での自由選択制の導入を図る。

### ・幼稚園、保育園の交流と一体化

幼稚園、保育園が従来の制度や枠を見直し、新たな交流等を実践しながらそれぞれの機能を生かした連携を検討する。

### ・通園区域の見直しと自由選択制の実施

本区では現在十四園の幼稚園を開園しているが、園児数により良好な教育環境の維持に困難な状況や、園児が急増する一部

地域の施設面等での問題も出てきている。殆どの幼稚園が小学校との併設であり、小学校と同様の通園区域になっているため、小学校の通学区域の見直しと併せて検討する。なお、定数基準を超える希望者がある場合は、抽選等による入園の方法も検討する必要がある。

・休日における学習の「場」の開設 地域社会の教育力の向上を目指し、区内卒業生や地域の方々の協力を得て、基礎的な学習の補習や外国語会話などの学習、書道、絵画、音楽等の技能を学べる各種の学習の「場」を開設する。

今後更に、提言の具体化に向け、関係者からの意見を聞きながら各論の検討を行い、平成十五年度中に最終答申を行うことを予定しています。



左から西村会長、西田教育長



# 中央区教育会研究発表会



▲幼稚園の部 1/21 (教育センター)



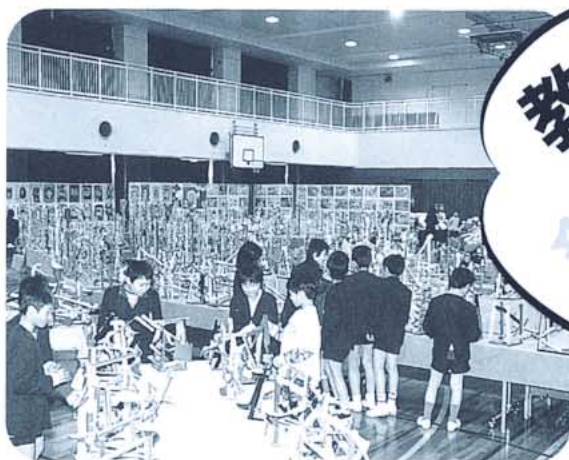
▲小学校の部 H14.12/4 (阪本小)



▲中学校の部 1/22 (教育センター)



▲こども新年会 1/15 (豊海幼)



▲展覧会 2/6~8 (佃島小)



▲親子ブレイダー (凧づくり) 1/15 (常盤幼)

教育  
ニ

・第35回金の作文コンクール(全国)

佳作 小林晶由子(三年)

・お茶の作文コンクール(全国)

優秀賞 白川綾乃(三年)

入選 石塚 瞳(三年)

・第44回水道週間作文コンクール

(都) 新都真子(三年)

佳作 新都真子(三年)

・国際ボランティア作文コンク

ル(全国)

郵政省事業局長賞 高木雅佳(三年)

・産業教育に関する作文コンク

ル(都)

入選 小倉正義(三年)

優秀賞 菅真理子(三年)

・第11回明日のTOKYO作文コ

ンクール(都)

佳作 新部真子(三年)

入選 坂田のぞみ(二年)

・読書感想文コンクール(都)

佳作 佐藤愛(三年)

・都中学校陸上競技大会

三位 矢作将哉(二年)

・都中学生学年別柔道選手権大会

敢闘賞(ベスト8) 篠塚智恵里(二年)

・都中学ロードレース大会

一年女子1km六位 益子義明(二年)

一年男子2km四位 篠塚智恵里(二年)

・都第26回アンサンブルコンテ

スト 打楽器五重奏 銀賞

小麓みのり(三年) 鈴木一美

(三年) 由地愛(三年) 石山梨

沙(二年) 武者ひかり(二年)

金管八重奏 銅賞

岩瀬珠恵(三年) 宮寺藍(二

年) 吉田友貴子(二年) 棚地

彩奈(二年) 須合弘明(二年)

白井三奈(二年) 内田有美

(三年) 小出泰誠(三年)

・都教育委員会児童・生徒表彰

団体 吹奏楽部

個人 小林千里(三年)

日本橋中学校





▲学校公開 2/13~15 (月島第一小)



▲研究発表会 2/14 (常盤小)



▲もちつき大会 H14.12/14 (晴海幼)



▲ドッチボール遊び 1/16 (泰明幼)



▲小学校連合展覧会 1/21~24 (教育センター)



▲区立中学校音楽会 H14.12/5 (銀座ブロッサム)

児童・生徒の記録

○第46回東京都児童生徒発明くふう展  
日刊工業新聞社賞

優秀賞 細田 誠也 (銀座中二年)

入選 福村麻利亜 (月島第二小)  
渡邊 正理 (久松小二年)  
玉川 俊樹 (日本橋中一年)

○東京都ジュニアバドミントン大会第26回シングルス大会  
優勝 福原弘之 (六年)

準優勝 村田裕樹 (五年)  
三位 門井 萌 (五年)

○第35回手紙作文コンクール(全国)  
地方郵政局長賞 安原晶恵 (四年)

東京郵政局長賞 石井 榮嘉 (日本橋中二年)

入選 新井みどり (月島第一小六年)  
福山今日子 (日本橋中二年)

高橋 真央 (月島第一小五年)  
小田安希子 (月島第一小二年)

○第28回私のアイデア貯金箱コンクール  
佳作 平賀 千智 (月島第一小二年)

審査員特別賞 鎌田優志 (月島第一小五年)

○東京都中学校合唱コンクール  
金賞 二・三年  
部門(都) 小笠原義人 (二年)

○東京都中学校吹奏楽コンクール  
銀賞 佃中学校

・第15回全日本マーチングフェスティバルパレードコンテストの部  
金賞

・明るい選挙啓発作品コンクール  
ポスター部門(都) 赤澤良平 (二年)

・全日本中学生人権作文コンテスト  
優秀賞 小林千里 (三年)

・第41回かんぽ作文コンクール(全国)  
東京郵政局長賞 樋川志帆 (三年)

山口温子 (三年)



## 親子で楽しむ

## 栽培活動

## 月島第一幼稚園

本園は栽培活動が盛んです。

園庭の花壇のほかに「月一園」という畑を使っています。この畑は、月島第一児童公園に隣接

## 特色ある教育活動から

し、月島第一小学校旧プールを改良したものです。小学校の保護者十数名が畑の管理や整備、活動時の補助などの協力をしてくださいます。年間を通していろいろな野菜と花を栽培したり虫探しをしたりすることができま

す。園庭の花壇やプランターでも同じように栽培をして身近な自然とかわれる重要な教育環境のひとつになっています。そこで、今年度は月一回親子で楽しむ栽培活動「月一園デー」を設けました。親子で活動に取り組む中で好奇心や気付き、驚きや喜びの姿を共に出し合い感じ合う機会となり、幼稚園にとっても親子にとっても意

味ある活動になっています。

みんなで土を耕して野菜を育て、有機野菜を味わう楽しさや喜びは、親子の心と生活に潤いや広がりをもたらしていると感じます。

今後それぞれの立場を生かして小学校とも連携し、協力し合いながら楽しく進められる栽培活動を目指します。



## 国際理解教育

## 阪本小学校

本校の特色ある教育活動のひとつとして取り組んでいる国際理解教育についてご紹介します。

まず国際理解教室です。毎年一、二回開き、韓国やブラジル

いろいろな国籍の方が学校に来てお話をしてくださっています。

今年度も六月、サッカーのワールドカップ直前に、ロシアの方が来てくださいました。ロシアの国の言葉や様子、日本との関わりについて、興味深い話を聞くことができました。

次に英語活動です。本校の保護者の紹介で、年間二十日、オーストラリアの方が来てくださっています。区の派遣の八回のALITの学習とあわせると、三、六年生の子どもたちは、年間二十八時間、一、二年生の子どもたちは、十六時間、英語活動に取り組んでいることになります。ボランティアで引き受けてくださっていますが、全二十回の計画をしっかりと立て、とても熱心に教材などを準備して、学習をすすめていただいています。

昨年度からの取り組みで、子どもたちもすっかり先生に慣れ、廊下ですれちがうと、自然に「ハロー」と声をかけあっています。

国際的な見方や感覚を身につけた子どもたちに育ってほしいと願っています。

## ひびかそう 心のハーモニー

## 管楽器の演奏活動

## 豊海小学校



一月二十六日に開催された音楽会は本年度で二十三回目を迎えます。各学年の合唱や合奏はもちろんのこと、本校では管楽器クラブによる演奏を参観者に披露しています。

この管楽器クラブは、昭和五十五年の開校当初から存在する伝統ある本校自慢のクラブです。四年生になったら入部できるといふことで、三年生以下の子どもたちや併設する幼稚園児も立派な楽器を持って演奏できる日を楽しみにしています。

音楽会での演奏活動以外には

全校朝会での入退場曲演奏、入学式や卒業式など各種校内行事における国歌や校歌の演奏などを行っています。昨年は子どもフェスティバルの開会式で演奏を披露し、好評を博しました。練習は、毎朝始業前の時間と第二火曜日を除く火曜日の六時間目に行っています。指導者は音楽専科だけでなく、担任もできうる限り指導に当たっています。また、今年度から保護者や教職を目指す学生、専門家を招いて指導をいただいています。子どもたちは、演奏活動とおして、音楽に親しみ、ねばり強く努力しようとする態度が育ってきています。「伝統は人を育てる」を合言葉に指導を繰り返しています。





# 一人ひとりが輝く学びを

月島第二小学校長  
町谷 幸子

本校は、平成十四、十五年度  
中央区教育委員会研究奨励校と  
して研究を進めています。研究  
主題を「一人ひとりが輝く学び  
を」——学習方法や形態の工夫  
——とし、少人数指導について  
実践を積み重ねてきました。

◆少人数学習集団による指導の  
意義

これからの小学校教育におい  
ては、児童一人ひとりに生きる  
力をはぐくむことを目指し、自  
ら学び自ら考える力の育成を図  
るとともに、基礎的・基本的な  
内容の確実な定着と一層の向上  
を図り、個性を生かす教育の充  
実と発展に努めることが重要で  
あります。

今、改めて基礎学力の向上が  
叫ばれています。そのために  
は、これまで以上に指導方法の  
工夫・改善が求められます。学  
級数を超える少人数学習集団を  
再編成し、その学習集団に合っ  
た指導を工夫していく少人数学  
習集団による指導の意義は次の

ようにとらえることができます。

〈児童の立場から〉

○分らない時に自分に合った  
方法で指導を受けることがで  
き、安心して学習を進めるこ  
とができる。

○分かったこと、できたことが  
増え、その教科が好きになる。

○さらに、発展した内容にまで  
学習を進めることができる。

〈教師の立場から〉

○基礎的・基本的な内容の確実  
な定着を図る指導ができる。

○一人ひとりの児童への指導と  
評価の機会が増え、個々の資  
質や能力に応じた指導を行う  
ことができる。

◆実践例 一学年 算数

単元名 「どちらがながい」

単元の目標 長さの比較などを  
通して、長さの概念や測定につ  
いての理解の基礎となる経験を  
豊かにする。

研究主題との関連

一年生では、身近な具体物な  
どを操作する体験を通して、ど  
の子も「できた!」「わかった!」  
「自分の意見が言えた!」と感  
じられるような、楽しく、意欲  
的に取り組める学習を目指した  
いと考えます。

○研究授業での提案



- 身の回りの具体物(消しゴム  
えんぴつ、クレパス、指の幅)  
いくつつ分かで比べる。
- 一つの方法ができたなら他の方  
法はないか考える。
- 友達のとえと比べられるよう  
にカードに書く。
- 皆にわかりやすく説明する。
- 物の長さを比べるには、同じ  
長さの物を使えば比べられる  
事に気づく。
- 自己評価ができるようにする。

これらは、子どもたちが主体的  
に学ぶ楽しさを実感するために  
大切な要素です。一人ひとりが  
意欲的に学ぶ姿を大切に見取  
り、思考過程の違いを理解しな  
がら「一人ひとりが輝く学びを」  
の研究を進めていきます。

## 我が家のニュース

### 皆が大事

月島第二幼稚園PTA  
則 武 美 津 子

親子三代、月二幼稚園・小学  
校に通っている私たち家族は、  
自営をしている父・母を中心に  
主人、小学三年生の長男、幼稚  
園年長の長女、そして主人の弟  
夫婦や叔父が、毎日集まり、賑  
やかに生活しています。

その中でも一番賑わうのは、  
お正月です。我が家のお正月は、  
大晦日に子どもたちも手伝い皆  
で味見をして、除夜の鐘ならぬ、  
晴海埠頭の船の汽笛が聞こえる  
頃まで作り続けるテーブルいっ  
ぱいの母の味のおせち料理を開  
んで、妹家族や親戚も加わり、  
たっぷりの時間をかけてゆっく  
り飲んだり、食べたりして過ご  
します。そして必ず、皆揃って  
の記念写真を撮ります。家族が  
増えたり、子どもたちが成長し  
ていたり、毎年一枚ずつ増える  
写真は、歴史であり、宝物にな  
ります。

そんな和やかに始まる一年で



すが、家族が多くて賑やかな分、  
毎日のように大きかったり、小  
さかったり、様々な波がどこか  
にやってもきます。でもそんな  
時は、それぞれが、それぞれの  
立場で心配したり、思ったり、  
頑張ったり、心の手はしっかり  
とつないで乗り越えているよう  
に思います。そしてまた、地域  
の方々と、学校・幼稚園のお友  
達や、その御家族、皆様に大き  
く支えられています。

本当にこの全てのつながりが  
どれもとても大切でありがた  
く、育まれる源になっていると  
思います。

この勝どきの地で四代目にな  
る子どもたち。皆に支えられて  
いることを心に一步一步前へ進  
んでいくって欲しいです。



## 一 研究主題について

今年度本校では、中央区の研究奨励校として、また平成十五年度の全国小学校社会科研究協議会研究大会の会場校、「生活科・社会科」に焦点をあて、研究を進めることにしました。

## 学校からのレポート

## 自ら学び、高め合う子どもをめざして

～課題を見付け、追究し、考えを深め合う子～

## 日本橋小学校

教諭 小林 宏

開校以来の本研究主題をもとに、全教科及び総合的な学習の時間を通して積み重ねてきた実績を土台に、あらためて児童・地域の実際の態と教師の思いや願いを洗い出し、実践に取り組みました。また、昨年度末から、都小社研の先生方と研究会や宿泊研修会をもち、大会テーマと本校のテーマとの関連性、授業案検討などを進めてきました。そして、授業を構築するにあたって、教師自身が地域を知ることが大切であるという意識から、地域の郷土史研究家の方を講師に地域のフィールドワーク研修会を三回行いました。

また、東京都小学校社会科研究会（都小社研）の大会テーマ「新しい時代に期待される公民的資質の基礎を養う社会科教育」をふまえて、今年度から、「課題を見付け、追究し、考えを深め合う子」を副主題とし、生活科・社会科の学習を通して課題解決能力を身につけることを研究の重点としました。

## 二 研究の内容と方法



研究組織を学年分科会（低・中・高学年）と研究分科会（理論指導案部・教材開発資料部）としました。学年分科会では、それぞれのめざす児童像・身につけさせたい力を考え、授業実践に取り組みました。また、昨年度末から、都小社研の先生方と研究会や宿泊研修会をもち、大会テーマと本校のテーマとの関連性、授業案検討などを進めてきました。そして、授業を構築するにあたって、教師自身が地域を知ることが大切であるという意識から、地域の郷土史研究家の方を講師に地域のフィールドワーク研修会を三回行いました。

## 三 研究の経過

今年度も全学年を通して、研究授業を実践しました。

一年生：生活科「だいすきだよ」

二年生：生活科「からだのふしぎをたんけんしよう」

三年生：社会科「わたしたちのくらしと商店」

四年生：社会科「受けたがれた技を生かす」

五年生：社会科「森林に生きる」

六年生：社会科「明治の新しい世の中」

どの実践も、家庭や地域の方、専門家をゲストティーチャーとしたり、地域に出かけて聞き取り調査をしたり、実際に体験活動を行ったりしながら、「調べて考える」学習を展開してきました。意欲的に教材開発し、日本橋小学校らしい教材の有効性を検証する事ができました。

## 四 今後の研究・実践に向けて

研究主題の「自ら学び」は、問題意識をもって主体的に学習ができる自己学習力や自己教育力が身に付いた「個」の確立をねらっています。また、「高め合う」は、児童相互の学び合いやかかわり合い、他の人や地域社会とのかかわりから共に生きることや社会性を身につけること

をねらっています。このことは、まさに社会科の究極のねらいである「公民的資質の基礎」であると考えます。

今年度は、「こだわり」「かわり」「つながり」「やくわり」の四つの「R（Re）」をキーワードに研究を進めてきました。児童が「こだわり」のもてる教材の開発、「かわり」や「つながり」を大切にした学習課程や指導法の工夫、「やくわり」意識を見取る評価の在り方等を意識しながら研究を深めてきました。このキーワードは、児童も教師に常にフィードバックしたり繰り返したりするという「Re（り）」という意味も含んでいます。今後もこれらの視点を大切に研究を深めていきたいと思っています。



## 編集後記

完全学校週五日制がはじまって早や一年が過ぎようとしています。教育界にとっては、大改革がはじまった一年目。先生方の研究活動も、例年になく盛り上がりを見せていました。

児童の様子、地域の実態にあわせて、各学校の特色を生み出していく価値ある教育活動の推進が図られた年であったように思っております。

## 子ども電話相談

♥つらいこと、こまったこと、ひとりでなやまず相談ください。

◆中央区立教育センター 3545-9203

月～金 9:00～17:00

◆東京都教育相談センター 3493-8008

月～金 9:00～22:00

土・日・祝 9:00～22:00

◆東京都児童相談センター 3202-4152

月～金 9:00～20:30

土・日・祝 9:00～17:00

教育広報「かがやき」では、皆様の声をお待ちしています。

「ご意見や」感想などがありましたら、どしどしお寄せください。

中央区教育委員会事務局庶務課  
〒104-8404 中央区築地一丁目  
☎（三五四六）九五九八

教育広報「かがやき」は再生紙を使っています。